

第24回奈良大和路キャンペーン「歴史の素顔に出逢いたい」の実施について

冬の奈良の観光PRのため、昭和57年から実施しています「奈良大和路キャンペーン」は、本年度で24回目を数えます。今回のキャンペーンは、本年12月15日から翌年3月21日までの日程で展開します。

当キャンペーンPR用のイベントガイド・ポスターが完成しましたので、キャンペーンの実施をお知らせします。

なお、ポスターについては、例年ならば11月中旬から駅、観光施設及び電車・バスの車内等掲出いたしますが、今年は、10月30日からJR西日本大阪環状線車内にポスターを掲出するのをはじめとして順次掲出していきます。

キャンペーンの実施について

・日程 平成17年12月15日～平成18年3月21日

イベントガイドについて

・サイズ等 冬のイベントガイドA4（24ページ全カラー）

・制作部数 15万部

・配付先 旅行代理店、JR東海観光案内所、JR西日本主要駅及び旅行センター、レジャー記者会・テレビ記者会等会員、近鉄主要駅、奈良交通主要案内所、奈良市内旅館・ホテル、奈良市内社寺・観光施設、大阪市内港湾施設、関西国際空港内案内所

ポスターについて

・サイズ等 B1、B2、B3（カラー5色刷り）

デザイン2種類 《歴史の素顔に出逢いたい そろそろ奈良へ 行事編・風景編》

・制作部数 35,000枚

（B1 3,000枚、B2 1,000枚、B3 31,000枚）

・掲出場所 全国JR主要駅・大阪環状線車内吊り、近鉄主要駅・車内吊り、奈良交通主要案内所・関東地区バス車内吊り、市内観光案内所、奈良市内旅館・ホテル、奈良市内社寺・観光施設、東京駅構内、大阪市内港湾施設、関西国際空港内案内所

【今回の特徴】

ポスターについて、前半（行事編）は、古都奈良の冬の代表的な伝統行事をモチーフに、後半（風景編）は、奈良のシンボルの一つである鹿と奈良の冬景色をモチーフに、それぞれ冬の「奈良」がもたらしてくれる「感動」・「癒し」をキャッチコピーとともに表現しています。現代人が渴望している「感動」・「癒し」という「こころ」の要素を表現することで、「こころのふるさと奈良」への誘客宣伝効果を狙ったデザインとしました。

イベントガイドについては、女性・若年層を意識したパステルカラーを用いて、親しみやすい誌面の仕上がりとなりました。また、旧月ヶ瀬村・旧都祁村との合併に伴い、月ヶ瀬梅林等の旧両村の冬の観光PRも行っています。

(前半ポスター・行事編：中央写真の解説)

写真：春日大社舞楽始式 「蘇莫者(そまくしゃ)」

曲について：役行者ゆかりの伝説など諸説ありますが、聖徳太子が信貴山で笛を吹いていると、山の神が現われ舞を踊ったといういわれを元に、四天王寺の楽人が作ったとも言われています。

舞楽面について：山の神を表したものといわれ、赤い舌を出した猿のような顔が特徴です。顔全体を金の漆塗りで仕上げ、舞楽面の中では一番長いといわれる白髪が植えてあります。

装束について：紅地唐織の裯襦(りょうとう)装束の上に蓑(みの)を着け、頭には面牟子(めんむし)とよばれる帽子をかぶり、手には桴(ばち)を持ちます。

楽所について：舞楽は7～8世紀に大陸から伝わった芸能が日本風に変化したもので、日本で最も古い伝統芸能の一つです。また、雅楽や舞楽を演奏する集団、組織を楽所(がくそ)と呼びます。春日大社ゆかりの南都楽所(なんとがくそ)は、平安時代後期に形成された後、京都(大内楽所)・大阪(天王寺楽所)と並ぶ「三方楽所(さんぼうがくそ)」の一つとして、その伝承・保存に努め、現在に至ります。毎年、成人の日には、春日古楽保存会・南都楽所の奉仕により春日大社の林檎の庭で舞楽が奉納されます。

(注)これはあくまでもイメージ写真ですので、本キャンペーン期間中に、当舞楽が奉納されるかどうかはわかりません。

問い合わせ先

奈良市経済部観光課

電話0742-34-1111

内線2911・2912